

氏名 藤 下 雅 敏

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 1677 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和61年 9 月 30 日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）

学 位 論 文 題 目 成人T 細胞白血病に関する研究

第 1 編：諸疾患患者と健康人におけるATLA（ATL-associated antigens）抗体の測定、特に輸血との関連性について

第 2 編：ATLA（ATL-associated antigens）抗体の家族内発現

論 文 審 査 委 員 教授 木村郁郎 教授 粟井通泰 教授 太田善介

## 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

100%の細胞がATLA 陽性の細胞株MT-2 を抗原として間接蛍光抗体法を用いATLA 抗体を測定した。

第 1 編：ATLでは27名中25名 がATLA抗体陽性で、他のT cell malignancy患者にも抗体陽性者が多く見られたが輸血歴のあった者は少数で、これら抗体陽性者はATL 類似疾患でATLウイルスがその病因に深く関与しているものと考えられた。一方その他の疾患では急性白血病を中心に抗体陽性者が見られ、その多くが大量の輸血を受けており、このうち1名は輸血中2ヶ月の経過で抗体が陽転し、輸血によりATL ウイルスが感染することを強く疑わせた。

第 2 編：ATLとATLA 抗体陽性のその他の疾患の患者家族を調査した。12例のATL患者家族計85名中34名が抗体陽性で、加齢とともに陽性率は上昇して60歳台で最高となり、高知県の健康供血者の抗体陽性率と比較して明らかに高率であった。これらの家族のうち夫婦間、母子間の抗体陽性率が高く、ATLウイルスの家族内感染を示すとともに、この両者の関係が伝播にとって重要な役割を演じていることを明らかにした。

## 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は成人T細胞白血病（ATL）におけるATLA抗体の測定並びに輸血との関係、更には家族内発現について研究したものであるが、従来十分検討されていなかったATLA抗体の出現状態についてATL は勿論急性白血病など他の疾患でも陽性者が認められ輸血に

よる感染が強く疑われ、又家族内でも夫婦間、母子間に陽性者が高く家族内感染を示すものと考えられる結果を得ており、重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。